

各学校における二者択一に対する考え方の一覧

資料番号3

1. 各学校における二者択一に対する賛否

	賛成	概ね賛成	現状の多段階対応の維持	その他の案	賛否が不明
学校数	5	13	2	2	7

2. 二者択一を進めるうえで各学校が考える課題

本人、保護者に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者負担が増える ②本人のストレスが増える、栄養が十分に取れない ③本人・保護者の理解を得るのが難しい(理解を得る必要がある) ④返金についても今後検討が必要
学校現場に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ①持参と書いていても持参しない家庭が複数あり、代替え対象の献立が増えると学校が対応できるか不安 ②代替え持参が増え、忘れた場合の対応が心配 ③担任の理解を得るのが難しい
食材に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ①さばやいわしアレルギーでさばが食べられないがだしは大丈夫という場合、給食の削り節にはさば節、いわし節混合のものを使用しているので、除去か解除の二択を迫られると保護者は悩む ②飲用乳のみ不可の児童生徒の中には、乳糖不耐症の児童生徒もいるので、二者択一をするのであれば乳糖不耐症の取り扱いの検討が必要 ⑤調味料の使用や微量混入まで完全除去管理になると現場の負担になる ⑥大豆アレルギーは大豆そのもの、豆腐等大豆加工品、豆乳、みそ等調味料など使用が多岐にわたり、二者択一となるとどこで線引きするかにより、食べられる献立の数が大きく変わり、統一すべき。一部の児童生徒および保護者の負担が増えないように配慮した検討が必要 ⑦献立を考える側も二者択一に適応した献立作成や選品が必要(パンは乳不使用、マヨネーズは使用しない、だしは鰹節を使用、小麦や大豆製品を同日の給食献立で1品以上使用しない等)